

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年1月31日時点)

➤ **ウクライナ軍の東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)における攻勢が停滞する一方、露軍は、東部(ドネツク州及びハルキウ州)で攻勢を強めるとともに、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を強化している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT8月18日)

: 死者約15万人 (「ウ」軍総司令官11月1日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT8月18日)

: 死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

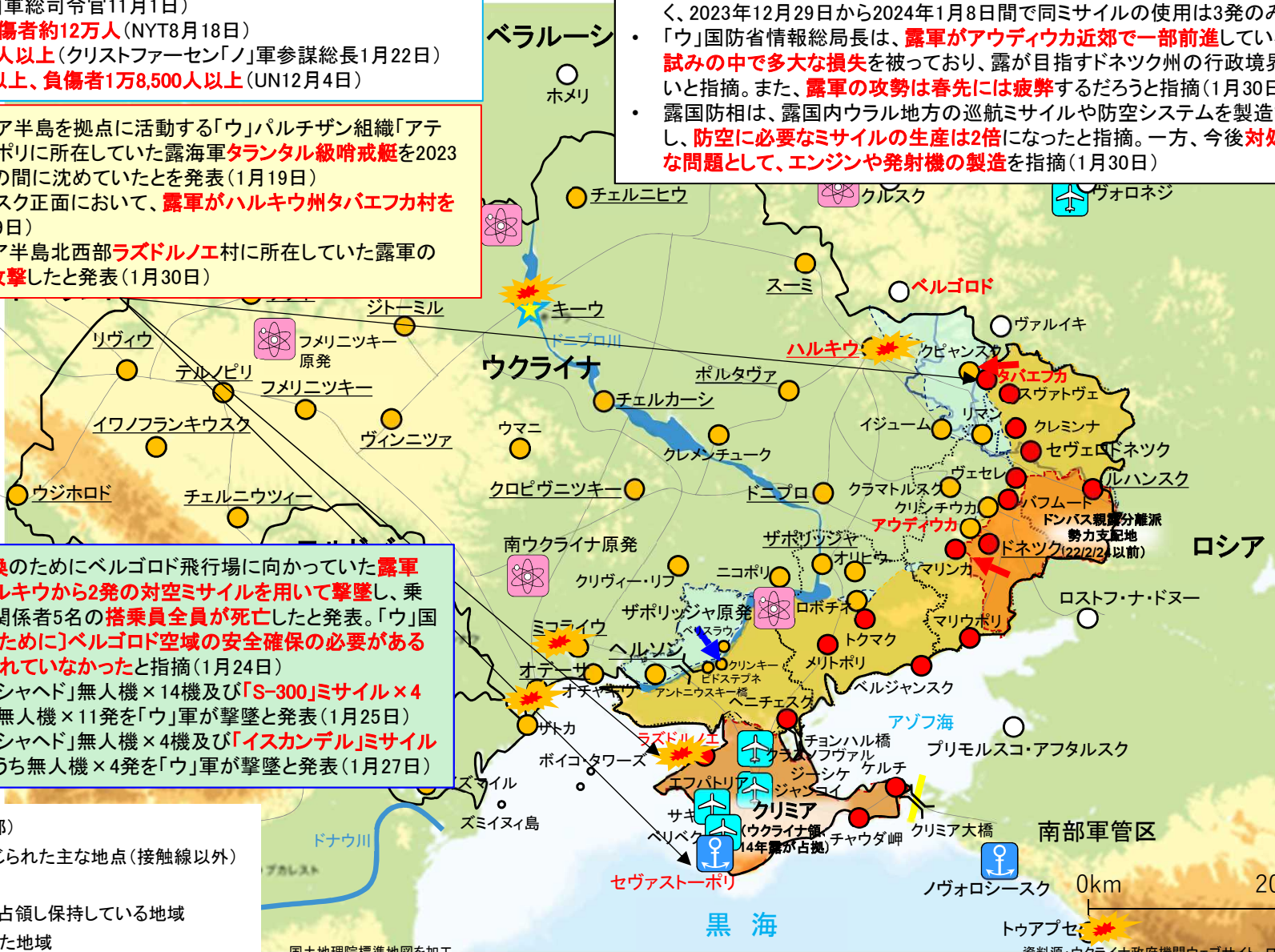
「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN12月4日)

- 「ウ」メディアは、クリミア半島を拠点に活動する「ウ」パルチザン組織「アテシュ」が、セヴァストーポリに所在していた露海軍タランタル級哨戒艇を2023年12月28日から31日の間に沈めていたと発表 (1月19日)
- 露国防省は、クピャンスク正面において、露軍がハルキウ州タバエフカ村を解放したと発表 (1月29日)
- 「ウ」軍当局は、クリミア半島北西部ラズドルノエ村に所在していた露軍の防空レーダー基地を攻撃したと発表 (1月30日)

- 「ウ」空軍報道官は、「ウ」メディアに対し、露軍は高精度長射程ミサイルを1月あたり100発製造しており、約900発残存していると指摘。また、海上発射型「カリブル」巡航ミサイルの使用頻度は低く、2023年12月29日から2024年1月8日間で同ミサイルの使用は3発のみと指摘 (1月28日)
- 「ウ」国防省情報総局長は、露軍がアウディウカ近郊で一部前進しているとしつつ、同市包囲の試みの中で多大な損失を被っており、露が目指すドネツク州の行政境界までの到達にはほど遠いと指摘。また、露軍の攻勢は春先には疲弊するだろうと指摘 (1月30日)
- 露国防相は、露国内ウラル地方の巡航ミサイルや防空システムを製造する防衛産業施設を視察し、防空に必要なミサイルの生産は2倍になったと指摘。一方、今後対処しなければならない重要な問題として、エンジンや発射機の製造を指摘 (1月30日)

- 露国防省は、捕虜交換のためにベルゴロド飛行場に向かっていた露軍輸送機を「ウ」軍がハルキウから2発の対空ミサイルを用いて撃墜し、乗組員6名、捕虜65名、関係者5名の搭乗員全員が死亡したと発表。「ウ」国防省は、[捕虜移送のために]ベルゴロド空域の安全確保の必要があることが「ウ」側に通知されていなかったと指摘 (1月24日)
- 「ウ」空軍は、露軍が「シャヘド」無人機×14機及び「S-300」ミサイル×4発の攻撃を行い、うち無人機×11発を「ウ」軍が撃墜と発表 (1月25日)
- 「ウ」空軍は、露軍が「シャヘド」無人機×4機及び「イスカンデル」ミサイル×1発の攻撃を行い、うち無人機×4発を「ウ」軍が撃墜と発表 (1月27日)

- 主要都市 (下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点 (接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等